

弘済院 ～認知症の人とのあゆみ～

弘済院 家族の会

(2025(令和7)年 3 月作成)

もくじ

1. 「弘済院 家族の会」の運営（金本 元勝・新谷 豪志）	
（1）開催概要	1
（2）参加にあたってのルール	2
（3）スタッフ体制・役割分担	2
（4）開催手順	3
（5）開催実績	6
2. 「弘済院 家族の会」寄稿集	（別冊）
〔 ※参加家族されたご家族や関係者から寄稿いただいているが、 プライバシーへの配慮等の観点から原則非公開 〕	
3. 会報集	（別冊）

1. 「弘済院 家族の会」の運営

「弘済院 家族の会」は、当院に受診する患者家族を対象に、認知症の人を家族に持つ者同士が交流できるピアカウンセリングの場として、2002(平成 14)年 12 月から院内において開催している。そこでは家族同士をはじめ、参加する専門職とも様々な思いを話し、参加者同士で交流を広げ、情報交換ができる場となるよう運営している。また専門職にとっては、こうした場への参加を通じて家族の率直な思いに触れることができ、多くの学びと成長をもたらす機会となっている。

以上のような「弘済院 家族の会」について、本稿ではその開催・運営の方法等について紹介する。

(1) 開催概要

①参加者

- ・ 当院を受診する患者の家族(おおむね 20 名程度)
- ・ 研修生の受け入れも行っており、見学のため若干名が参加することもある

②内容

- 日程 毎月1回 第4火曜日 (受付開始 13時30分～)
 14時00分～15時00分(60 分)
- プログラム ・ミニ講演(15分)
 ・意見交換・質疑等(45分)

③ミニ講演のテーマ設定

- ・ 家族同士の交流を円滑に進めることを企図し、情報提供と話題提供のためにプログラムの最初にミニ講演を組み入れている。ミニ講演の後に、参加家族との意見交換や質疑を行う。
- ・ テーマ設定にあたっては、講師をつとめる各専門職の専門領域野から、認知症の人を介護する家族にとって必要と考えられるテーマを選定する。(P.7～②ミニ講演テーマ一覧を参照)。また、医師や看護師など関係する専門職が集まるミーティングなどの場で、年間の講師担当スケジュールと各テーマを調整し分担する。

④その他

- ・ 医療に関する質問への対応のために、医師1名が参加している。
- ・ 「弘済院 家族の会」の前後の時間には、認知症に関する基礎的な内容の講義である「もの忘れ教室」を、受講を希望される家族に向けて開催している。その中で「弘済院 家族の会」を案内することで、希望者がそのまま参加できるように、それぞれ連携を図っている。

(2) 参加にあたってのルール

様々な家族が参加するため、開催に際しては、プライバシーへの配慮や、話し合いにおけるルールなど、参加者に理解を求めることが必要となる。そのため、開催前には、参加にあたっての配慮、注意事項をまとめたスライド「参加のお約束」をスクリーンに投影し、参加者に内容を確認いただいている。

弘済院 家族の会

参加のお約束

皆様が安心してご参加いただくためのルールです

1 この場で話したこと・聞いたことは、決して外では話しません
プライバシーを守りましょう

2 他の方のお話は、最後まで聞きます
お話しされる時間配分は司会者が調整します。長時間の独占はご遠慮ください

3 話したくない時は、無理に話さなくてかまいません
パスもOKです

4 認め合い、支え合う場として、お互いの気持ちを尊重します
価値観や意見は人それぞれ。多様であることを認めましょう

どうぞよろしくお願いします



大阪市立弘済院附属病院
認知症疾患医療センター

(3) スタッフ体制・役割分担

役割	人数	職種	役割
ミニ講演講師	1人	テーマにより調整(毎月交代)	・講師対応 ・配付資料作成
司会	1人	医師	・司会進行 ・参加家族の状況を把握しておくことが望ましい。
運営スタッフ	3～4人	看護師 相談員 事務職	(会場設営・受付) ・参加家族等の受付、資料配付等 (記録・進行補助) ・記録(録音) ・質疑時のマイク渡し、お茶配膳 (会報作成・配付) ・開催内容から会報作成(毎月発行) ・会報配付(院内待合室等へ配架)

(4) 開催手順

①必要物品・備品類

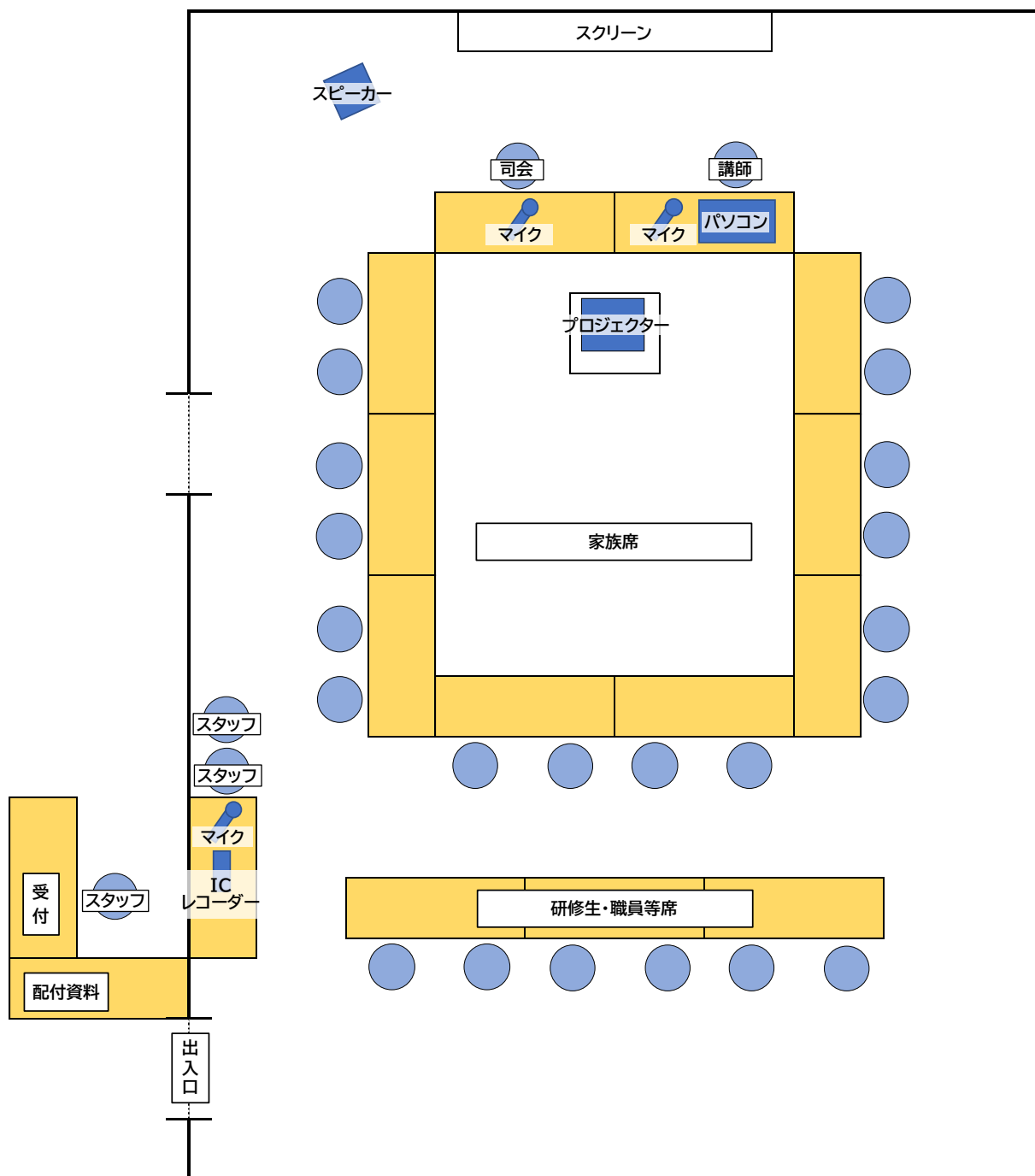
ア 受付

- ・受付用机
- ・受付用参加者氏名記入用紙(参加家族用、職員・スタッフ・研修生)
- ・配付資料(講師配付資料・会報(直近発行分)・次回開催案内チラシ)
- ・机上ネームプレート・ネームプレート用紙(空白)
継続的に参加されているご家族分は五十音順に並べておく。
新規のご家族には空白のネームプレート用紙に記名いただく。
- ・掲示用「受付」表示
- ・筆記用具・セロハンテープ等

イ 会場内

- ・机・椅子
- ・パソコン、レーザーポインター、映写データファイル
(使用するデータファイルを事前にデスクトップ上に保存しておく)
- ・プロジェクター、スクリーン
- ・マイク 3 本(講師用・司会用・質疑時用)
- ・延長コード
- ・記録用 IC レコーダー
- ・お茶、紙コップ

②会場レイアウト



③開催当日の手順

	時間	内容・作業
準備	10 時 00 分～	資料印刷 ・配付資料の印刷 ※講師担当者から事前にデータを受け取っておく。
	12 時 30 分～	会場設営(レイアウトのとおり設営) ・受付は参加家族の名札、参加家族名を記入用紙、配付資料を並べ、筆記用具を配置
受付	13 時 30 分～	開場・受付 ・来場されたご家族を順次、受付、会場に案内。 ・受付で名札を配付し、参加者それぞれ(任意の席)が席に設置。 ・新しい参加者には、名簿に名前を記入いただき、名札を作成する。名札ケースサイズの用紙に認知症の本人の名前を記入し、ケースに差し込む(ただし匿名での参加を望まれる場合もあるため、意向を確認する)。 ・参加者にお茶を入れて配膳。 ・「参加のお約束」をスクリーンに映写。
開催	14 時 00 分～	開催・ミニ講演開始 ・司会から挨拶、講師紹介。 ・ミニ講演開始。 ・ICレコーダーで録音。
	14 時 15 分～	意見交換・質疑等 ・司会が進行し、ミニ講演の感想や、自身の近況等について参加家族からお話いただく。
	14 時 55 分～	司会から次回の案内、その他情報提供 ※終了後、質疑で応答の合った間柄や新規参加者など、患者家族同士の引き合い・顔合わせをスタッフが適時誘導。
片付け	15 時 00 分	会場撤収 ・残った配付資料はもの忘れ外来や待合室に配架。
会報作成	終了後	会報作成・配架 ・講演や質疑・意見交換の内容をまとめた会報を作成。 ・完成後印刷し、院内に配架。 ・次回開催時に資料のひとつとして配付。

④意見交換・質疑等の進行上の配慮

- ・司会は、家族の発言にはどのような思いがあるのかを考慮し、共通の経験を有する他の家族に発言を求めるなど、配慮のうえ進行する。参加者の意見は、ミニ講演に関するもの以外の話題でも良く、基本的に制限はない。
- ・意見交換や質疑の中では、家族同士の交流のきっかけとなるよう意識しながら、司会、講師と発言する家族との間の個別のやり取りとならないように配慮する。

(5) 開催実績

①実施経過

「弘済院 家族の会」は、「外来グループ回想法」(月2回開催・2000(平成12)年より開始)に患者が参加するために、当院まで付添をしてきた家族の待機時間を有意義なものとするため、弘済院第2特別養護老人ホームの研修室を使用し、2002(平成14)年12月から開始した。第1回目は8家族10人が参加され、プログラムは次のとおりであった。

第1回 弘済院 家族の会

日 時 2002(平成14)年12月10日(火)

プログラム	1 挨拶	附属病院 神経精神科医長	中西 亜紀
		外来婦長	前田 恒子
		第2特養(あんず苑)苑長	北沢 啓子
	2 趣旨説明	家族会の役割～臨床心理士の立場から～	
			山本 廣美
	3 話題提供	痴呆に関する基礎知識	中西 亜紀

(※記載および講師等の所属は当時のまま)

「外来グループ回想法」は1クール約2か月半で一区切りとするサイクルで運営しており、「外来グループ回想法」終了後も、「弘済院 家族の会」への参加を希望される家族も多く、次第に参加人数が増加することとなった。また、「弘済院 家族の会」への参加をきっかけに、家族同士が連絡先を交換し、相談し合うことも増え、ピアサポート活動としての意義と効果が明らかとなってきた。

「弘済院 家族の会」の取組が家族の間で評判となり、参加を希望される方が増えてきたため、会場を拡大することとし、講演会等を行うための院内施設である寿楽館の研修室に変更することとした。その際、「外来グループ回想法」を利用する患者家族のみならず、当院に通院する患者家族へと参加対象者を改めることとした。また開催回数は、院内スタッフで継続的な体制の維持を考慮し、月2回から1回に変更することとした。

参加できなかった家族から、ミニ講演の配付資料の共有や、話し合われた内容を知りたいと希望されることもあり、これらの要望に対応するため、2012(平成24)年7月より会報を作成し、毎月の発行に努めてきた。

2020(令和2)年3月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、集合形式の維持が困難となり、「弘済院 家族の会」は休止することとなった。

その後、2024(令和6)年からは、認知症看護認定看護師が中心となり、「弘済院 家族の会」からは実施体制や開催内容は改めたかたちであるが、「家族の集い」として、もの忘れ外来の待合室を活用し、家族交流会を月1回開催している。

②ミニ講演テーマ一覧

ミニ講演のテーマ及び講師は次のとおり。(会報の作成を開始して以降の記録に基づき作成した)

開催年度	ミニ講演タイトル	講師
2012 (平成 24)年度	脳血管障害と認知症	金本 元勝
	改めて アルツハイマー病について	中西 亜紀
	認知症の症状をどう考える?～徘徊・不眠・意欲の低下～	中西 亜紀
	認知症と食	森本 早苗
	認知症治療薬開発の最新事情 2012	森 啓
	今「認知症」の治療に使われている薬について	中西 亜紀
	iPS 細胞による認知症研究のご紹介	森 啓
	介護施設等への入所について	井阪 純子
	回想法～心理的側面について	芦田 望
	自分の感情と向き合う～認知行動療法の視点から～	出口 裕彦
2013 (平成 25)年度	最近の新聞にとりあげられた認知症に関する話題	河原田 洋次郎
	もの忘れとも仲良くつきあうために	金本 元勝
	認知症の方と考える地域づくりへの取り組み in 大阪	中西 亜紀
	パーキンソン症状と認知症	金本 元勝
	睡眠薬について	河原田 洋次郎
	認知症とからだの不調	森本 早苗
	米国認知症治験事情 2013	森 啓
	介護保険に関する最近の動向について	井坂 純子
	認知症の心理検査～HDS-R、MMSE、Baum test について～	岩本 友希
	脳の発達から認知症の症状を考える	森 啓
2014 (平成 26)年度	認知症の BPSD について	日下 博登
	アルツハイマー型認知症の最近の動向について	金本 元勝
	認知症と便秘	河原田 洋次郎
	レビー小体型認知症について	中西 亜紀
	脳血管障害について～動脈性と静脈性～	金本 元勝
	心理的アプローチ～回想法とコラージュ療法	岩本 友希
	介護施設等への入所について	田中 充子
	認知症の方とのコミュニケーション	森本 早苗
	認知症の周辺症状	太尾 恵理
	アルツハイマー病の先制医療について	森 啓
	日本認知症学会学術集会に参加して	金本 元勝
	高齢者のうつ	竹田 由美
2015 (平成 27)年度	『認知症サミット』日本後継イベント 2014 のご報告	森 啓
	認知症と転倒	河原田 洋次郎
	認知症を取り巻く最近の状況 2015	中西 亜紀
	脳血管性認知症について	金本 元勝
	BPSD のなぜ?を考えよう	中西 亜紀
	介護保険制度の法改正と施設について	田中 充子
	オレオレ詐欺はなぜ起こる:脳の働きと認知症	森 啓
	認知症の方の排泄の問題	森本 早苗

	こころを軽くする介護～こころに寄り添う方法～	笹田 郁子
	認知症と車の運転	河原田 洋次郎
	認知症ケアに関する知恵袋～便利グッズなどのご紹介～	金本 元勝
	認知症の人の食事支援	中村 里江
	若年性認知症の症状・社会的対応と脳の中で起こっていること	森 啓
	認知症を共に支えるこれからの介護	長谷川 美智子
2016 (平成 28)年度	認知症と睡眠障害	河原田 洋次郎
	認知症とともに生きていく～思いを汲むことから聴くことへ～	金本 元勝
	認知症になっても安心して暮らせる街づくり～その現況は？～	中西 亜紀
	社会制度について	田中 充子
	認知症発症前のプレクリニカル期を考える	森 啓
	認知症とからだの不調	森本 早苗
	認知症と喫煙	河原田 洋次郎
	認知症の人の語り	笹田 郁子
	認知症と画像検査	丸田 純平
	地中海食は認知症に効く？	森 啓
	酒は百薬の長？百害あって一利なし？	河原田 洋次郎
2017 (平成 29)年度	持続可能な介護のための社会制度の利用	金本 元勝
	認知症の BPSD	河原田 洋次郎
	同じことを言う・する～なぜ？どうしたらいい？	中西 亜紀
	認知症の心理検査	笹田 郁子
	認知症の最近の話題	金田 大太
	認知症のある人の怒りっぽさと対応	森本 早苗
	アルツハイマー病タウ治療の結果解説	森 啓
	介護保険制度の法改正と障がい者制度について	櫻井 美佐恵
	認知症の症状～心理的側面からの理解～	岩倉 慶裕
	ノーベル化学賞 2017 の認知症研究への応用“クライオ電顕の開発”	森 啓
	排泄の困りごと	玉城 佳代子
2018 (平成 30)年度	認知症と運動～歩くことは百薬の長	河原田 洋次郎
	認知症におこるてんかんについて	金田 大太
	様々な場面で介護する家族に求められる意思決定	金本 元勝
	認知症のひとをささえる国や地域の取り組み	中西 亜紀
	認知症とからだの不調	森本 早苗
	家族を支える介護サービス	西本伊津美
	リュウマチ患者に認知症は少ない？	森 啓
	一緒に考えませんか ～ 家族のきもち、介護ストレス	林 牧
	認知症の本人の思いを知るために～聴き、確認する方法をさがす～	中村 里江
	認知症と性格～認知症になりやすい性格ってあるの？～	河原田 洋次郎
	BPSDと薬物療法	福田 友一
2019 (平成 31・令和 元)年度	認知症の方の食支援	林 貴与恵
	痒み止め(Dimebon)が、アルツハイマー病に効く？	森 啓
	いろいろな認知症について	金本 元勝
	認知症と脳卒中の関係について	金田 大太
	睡眠薬について	河原田 洋次郎
	認知症の怒りっぽさについて	森本 早苗

認知症の人と家族のための福祉サービス	西本 伊津美
遺伝子から認知症を解明	森 啓
前頭側頭型認知症について	中西 亜紀
認知症と体重	河原田 洋次郎
アンガーマネジメント～イライラとのつきあい方	林 牧
認知症の行動心理症状(BPSD)	山條 祐輝
認知症にまつわるお金の話	金本 元勝

「弘済院 家族の会」の運営」執筆者一覧(50 音順)

金本 元勝

弘済院附属病院 神経内科

新谷 豪志

弘済院管理課 兼 福祉局高齢者施策部地域包括ケア推進課

2025(令和7)年3月作成

弘済院 ～認知症の人とのあゆみ～
弘済院 家族の会
（「弘済院 家族の会」の運営）

作成 2025（令和7）年3月

企画 大阪市立弘済院附属病院（認知症疾患医療センター）
大阪府吹田市古江台 6-2-1

発行 大阪市福祉局高齢者施策部地域包括ケア推進課（認知症施策グループ）
大阪市北区中之島 1 - 3 - 20

本書に関するお問い合わせ先

電話 06-6871-8013（大阪市立弘済院附属病院）
06-6208-8051（大阪市福祉局 地域包括ケア推進課）

*** 本書の無断転載を禁じます（非売品）**